

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中央 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、9年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

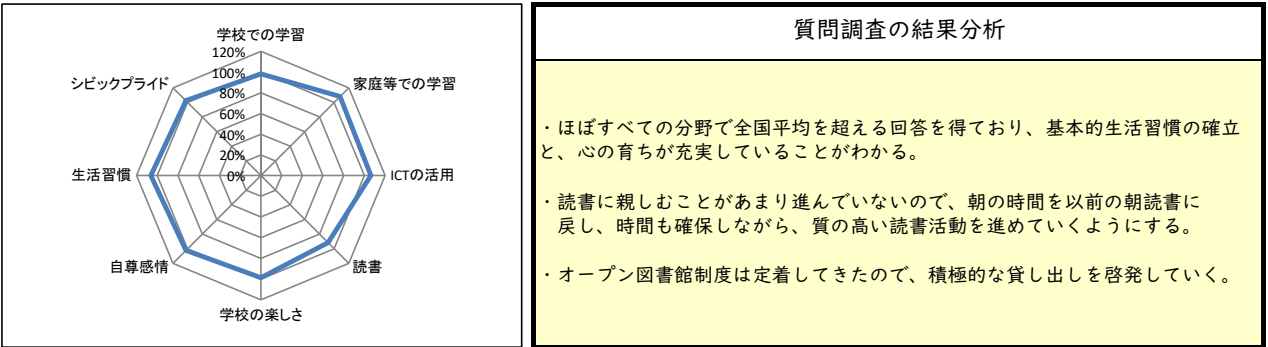
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	8割程度の問題は全国平均正答率を超えており、よくできている。 一部、無解答率が高い問題もあるが、記述問題も全国に比べるとよく解答できている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	1 四 ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	
	努力が必要な問題	2 一 スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	
数学	全体的な傾向や特徴など	8割程度の問題は全国平均正答率を超えており、よくできている。 特に、証明に関する問題に関して、その仕組みをよく理解している。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	6(3)連続する3つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成させる	
	努力が必要な問題	1 1 から9までの数の中から素数を全て選ぶ	
理科	全体的な傾向や特徴など	8割程度の問題は全国平均正答率を超えており、よくできている。 どの分野も理解している。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	2(1)【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	
	努力が必要な問題	9(2)クリーンルームのほか気圧を利用して身近な事象を選択する	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・DXを推進し、個別最適な学習と協働的な学習の更なる推進を行うことで、必要な資質・能力を身に着ける。
- ・探究的な学習「未来科」を推し進め、自ら学ぶ力と他者に伝える力を身に着ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・AIドリルを活用し、家庭学習の推進に力をいれる。
- ・SNS等に関して、「デジタル・シティズンシップ教育」として、学年の発達の段階に応じた内容を取り上げ、考える授業を行っている。